

日本養護教諭養成大学協議会

2019年度 養成教育セミナー
資料

日時：2019年 9月 9日 (月) 13:00~16:50

場所：きゅりあん 1階 小ホール (〒140-0011 東京都品川区東大井5-18-1)

目次

- テーマ及び趣旨等 1
- プログラム 2
- 1) 日本養護教諭養成大学協議会作成「養護教諭養成課程コアカリキュラム（養大協版）2020」について
- 2) グループワークの説明
- 3) グループワーク
 - I群「養護および養護教諭に関する基礎的理解」
 - II群「子どもと子どもを取り巻く環境の理解」
 - III群「養護実践の基礎的内容と方法の理解」
 - IV群「養護実践の計画と展開方法の理解」

運営担当：教育課程（カリキュラム）・養成制度（法制度）検討委員会

◎委員長 大川尚子（京都女子大学） ○副委員長 下村淳子（愛知学院大学）
委員 青柳直子（茨城大学）、池添志乃（高知県立大学）、上原美子（埼玉県立大学）、
大野泰子（鈴鹿大学）、奥田紀久子（徳島大学）、亀崎路子（杏林大学）、
上村弘子（岡山大学）、後藤多知子（愛知みずほ大学）、竹中香名子（国際医療福祉大学）、
高田恵美子（畿央大学）、平井美幸（大阪教育大学）

メインテーマ：「養護教諭養成モデル・コア・カリキュラム」の構築に向けて II

<趣 旨>

教育課程（カリキュラム）・養成制度（法制度）検討委員会では、一昨年度、養護教諭養成大学の養護専門科目の教育課程の現状を把握し、今後の養成カリキュラムの充実と免許法改正に向けた基礎資料とするため、各大学の養成カリキュラムの実態調査を実施しました。

2015～2017年度の3年間、検討委員会では、養護教諭が卒業時に修得する力を明確に示すうえで、科目名を細かく指定する方向で議論してきましたが、文部科学省は大きくくり化の方向に流れています。「養護教諭の実践」に必要な力が見えるように根拠をあげて示しながら、すべての会員校の行う教育の質を高めることが重要であると考えました。そこで、今期（2018～2020年度）の検討委員会では、これまでの教育課程（カリキュラム）検討委員会の成果と前期の調査結果を元に、各大学の養成教育へ活かすことのできる本協議会独自の「養護教諭養成モデル・コア・カリキュラム」を作成しています。

そのために、昨年度のセミナーでは、協議会が実施した「養護教諭養成大学における教育課程の現状に関する調査」の結果を詳細に報告し、すでに日本教育大学協会や日本看護系大学協議会養護教諭養成教育検討委員会が作成している「養護教諭養成モデル・コア・カリキュラム」を紹介していただきました。

また、分科会において、「保健室経営の理論及び方法」「健康教育の理論及び方法」「小児疾病論」の内容について、グループワークを行い各大学の開講状況や工夫している内容を交流し、本協議会の「養護教諭養成モデル・コア・カリキュラム」の構築に向けて検討しました。

今年度のセミナーは、日本養護教諭養成大学協議会作成「養護教諭養成課程コアカリキュラム（養大協版）2020」について説明し、そのコアカリキュラム案のⅠ群「養護および養護教諭に関する基礎的理解」、Ⅱ群「子どもと子どもを取り巻く環境の理解」、Ⅲ群「養護実践の基礎的内容と方法の理解」、Ⅳ群「養護実践の計画と展開方法の理解」の到達目標の内容について、会員校に実施した「養護教諭養成課程コアカリキュラム（養大協版）2020（案）」に関する調査の結果をもとに検討するグループワークを実施したいと考えております。

2019年度 養成教育セミナー

テーマ：「養護教諭養成モデル・コア・カリキュラム」の構築に向けて II

〈日 時〉 2019年9月9日（月） 13:00～16:50

〈プログラム〉

開 会	13:00
1) 全体会 <小ホール>	
(1) 日本養護教諭養成大学協議会作成「養護教諭養成課程コアカリキュラム（養大協版）2020」について	13:00～13:30
(2) グループワークの趣旨説明	13:30～13:40
休憩・移動	13:40～14:00（20分）
2) 分科会	
(1) グループワーク	14:00～15:45
Ⅰ群「養護および養護教諭に関する基礎的理解」	<小ホール>
Ⅱ群「子どもと子どもを取り巻く環境の理解」	<第2講習室（5階）>
Ⅲ群「養護実践の基礎的内容と方法の理解」	<大会議室（6階）>
Ⅳ群「養護実践の計画と展開方法の理解」	<第4講習室（5階）>
休憩・移動	15:45～16:00（15分）
3) 全体会 <小ホール>	16:00～16:40
(1) 各会場からの報告	
閉 会	16:40～16:50

<全体会資料>

「養護教諭養成課程コアカリキュラム(養大協版)2020(案)」

【I群】養護および養護教諭に関する基礎的理解

全体目標

教育職員としての養護教諭が養護をつかさどるための基礎的・基本的事項について理解する。また、学校保健活動の中核的な役割を果たすための養護教諭の専門性を理解する。

一般目標	到達目標
1) 養護の概念並びに養護教諭の基本的責務、歴史や制度(関係法規を含む)、職業倫理、役割・職務内容を理解する。	①養護の概念について理解している。 ②養護教諭の基本的責務について理解している。 ③養護教諭の歴史や制度(関係法規を含む)について理解している。 ④養護教諭の職業倫理について理解している。 ⑤養護教諭の役割・職務内容について理解している。 ⑥養護実践※の意義について理解している。 ⑦養護教諭のキャリア形成について理解している。
2) 子どもの人権や健康観及び発育・発達観に関する基礎的・基本的事項を理解する。	①人権と擁護について理解している。 ②子どもの人権保障の意義について理解している。 ③健康・ヘルスプロモーションの考え方について理解している。 ④人の発育・発達について理解している。 ⑤学校教育における子どもの発育・発達及び健康への支援と生涯保健との関連を理解している。
3) 学校保健・学校安全の基礎的・基本的事項を理解する。	①学校保健の意義および領域と構造について理解している。 ②学校安全の意義について理解している。 ③チーム学校における養護教諭及び関係者の役割と組織活動の意義について理解している。 ④学校と家庭および地域との連携・協働の意義、コーディネーターとしての役割について理解している。 ⑤保健室経営の意義と養護教諭の専門性について理解している。

<※養護実践とは>

・養護実践とは、児童生徒等の心身の健康の保持増進によって発育・発達の支援を行うために、養護教諭が目的を持って意図的に行う教育活動である。

・養護教諭の専門性を生かしたあらゆる活動は「養護活動」とも言われ、その中でも特に、目的意識を持って意図的に対象に働きかける教育活動を「養護実践」という。

(日本養護教諭教育学会 養護教諭の専門領域に関する用語の解説集<第三版>より)

【Ⅱ群】子どもと子どもを取り巻く環境の理解

全体目標

養護実践を行う上で必要な人間、とくに発育・発達過程にある子どもの心身機能・構造、健康課題、病態の特徴を理解する。また、特別な支援を必要とする子どもの発達過程および子どもを取り巻く環境について理解する。

一般目標	到達目標
1) 人間のライフステージと発達過程について理解する。	①人間のライフステージと発達過程について理解している。 ②社会的存在としての子どもについて理解している。
2) 心身機能・構造と発達過程について理解する。	①命を生むしくみ（人体の発生・遺伝子、生殖系などの機能・構造）と発達過程について理解している。 ②命を維持するしくみ（呼吸・循環・代謝系、ホメオスターシスなどの機能・構造）と発達過程について理解している。 ③身体を支えて動くしくみ（運動器・神経系などの機能・構造）と発達過程について理解している。 ④情報収集のしくみ（感覚器・神経系などの機能・構造）と発達過程について理解している。 ⑤高次機能のしくみ（認知・行動などの機能と脳の構造）と発達過程について理解している。 ⑥心と身体をつなぐしくみ（神経・内分泌・免疫系などの機能・構造）と発達過程について理解している。
3) ライフステージ各期の心身の発育・発達の特徴および健康課題・病態の特徴について理解する。	①生理的变化と疾患のなりたち・治療法について理解している。 ②乳幼児期の心身の発育・発達の特徴と健康課題・病態の特徴について理解している。 ③小児期の心身の発育・発達の特徴と健康課題・病態の特徴について理解している。 ④思春期の心身の発育・発達の特徴と健康課題・病態の特徴について理解している。 ⑤青年期の心身の発育・発達の特徴と健康課題・病態の特徴について理解している。 ⑥壮年期以降の心身の発達・加齢性変化の特徴と健康課題・病態の特徴について理解している。
4) 特別な支援を必要とする子どもとその発達過程について理解する。	①身体的支援を必要とする子どもと発達過程について理解している。 ②精神的支援を必要とする子どもと発達過程について理解している。 ③養育環境への支援を必要とする子どもと発達過程について理解している。 ④多様な背景（性、外国籍など）をもつ子どもと発達過程について理解している。
5) 子どもを取り巻く環境（生活・家族・地域など）と健康との関わりについて理解する。	①生活（日常生活行動、生活リズムなど）と健康との関わりについて理解している。 ②家族の機能・構造と子どもの健康との関わりについて理解している。 ③健康の決定要因（物理的・化学的・生物学的環境、政策、社会・経済的地位など）について理解している。 ④地域の連携可能な関係機関（保健機関、医療機関、福祉機関など）と関係職種（ボランティア、民生委員など）を理解している。

【Ⅲ群】養護実践の基礎的内容と方法の理解

全体目標

養護実践を進めるにあたり、養護教諭の職務内容、学校保健活動において求められる役割について、基礎的内容および基本的な方法を理解する。

一般目標	到達目標
1) 保健管理の意義と目的、内容、基本的な方法について理解する。	<p>①健康観察の意義と目的をふまえた上で、基本的な観察方法と活用について理解している。</p> <p>②健康診断の意義と目的をふまえた上で、基礎的内容、基本的な実施方法と活用方法について理解している。</p> <p>③疾病の予防と管理に関する基礎的内容、基本的な実施方法について理解している。</p> <p>④学校環境衛生活動の意義と目的をふまえた上で、基礎的内容、基本的な方法について理解している。</p> <p>⑤学校生活における安全管理・危機管理の意義と目的をふまえた上で、基礎的内容、基本的な方法について理解している。</p> <p>⑥危機管理体制の整備に関する基礎的内容、基本的な方法について理解している。</p>
2) 救急処置の意義と目的、内容、基本的な方法について理解する。	<p>①救急処置の意義と目的をふまえた上で、基礎的内容、基本的な方法について理解している。</p> <p>②救急体制の整備に関する基礎的内容、基本的な方法について理解している。</p>
3) 保健教育の位置づけと目的、内容、基本的な方法について理解する。	<p>①保健教育の位置づけと目的をふまえた上で、基礎的な理論と活用方法を理解している。</p> <p>②関連教科における保健に関する目標と内容を理解し、包括的な保健教育の視点を理解している。</p> <p>③総合的な学習の時間における保健に関する目標と内容、基本的な指導の方法を理解している。</p> <p>④特別活動における保健に関する目標と内容、基本的な指導の方法を理解している。</p>
4) 健康相談（健康相談活動）・保健指導の意義と目的、子どもと家庭への基本的な支援方法について理解する。	<p>①健康相談（健康相談活動）の意義と目的をふまえた上で、養護教諭の役割を理解し、基本的な相談技術と留意点について理解している。</p> <p>②子どもの健康課題を把握し、課題解決に向けた基本的な支援方法を理解している。</p> <p>③保健指導や学校生活における日常的な指導について理解している。</p> <p>④健康相談（健康相談活動）における連携先と連携方法について理解している。</p>
5) 保健室経営の意義と目的、基本的な方法について理解する。	<p>①保健室経営の意義と目的をふまえた上で、養護実践のプロセスについて理解している。</p> <p>②保健室経営計画の必要性を理解し、作成方法について理解している。</p> <p>③養護実践を通じて得た情報を保健室経営計画に反映させるための、疫学や統計手法等を含めた基本的な方法を理解している。</p> <p>④学校内外の関係者との協働の重要性、連携の在り方を理解している。</p>
6) 保健組織活動の意義と目的、内容を理解し、基本的な連携・協働について理解する。	<p>①保健組織活動の意義と目的をふまえた上で、活動内容、基本的な方法について理解している。</p> <p>②教育及び保健・医療・福祉に関わる社会資源について理解している。</p>

解する。	③家庭との連携・協働の方法や支援方法について理解している。 ④地域との連携・協働の方法について理解している。 ⑤チームとしての学校運営における連携・協働の方法について理解している。
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------

【IV群】養護実践の計画と展開方法の理解

全体目標

子どもの実態に応じた養護実践を計画し、必要な知識・技術・方法を統合して、養護実践を展開し、評価・改善するための方法を理解する。

一般目標	到達目標
1) 子どもの心身に関する情報の収集と管理を行い、関係者と情報共有する意義と方法を説明できる。	①子どもの心身の情報を収集し、整理する方法を説明できる。 ②子どもに共感的態度でかかわり、心身の情報等から常に子どもの健康状態を把握することができる。 ③子どもの心身の状況や周囲の環境における課題を関係者と共有することができる。 ④収集した情報を管理する方法を説明できる。
2) 子どもの心身の状態を根拠に基づいて包括的に評価できる。	①子どもに生じている問題について、背景や影響する要因を踏まえて説明できる。 ②心身の状態を包括的に評価し、緊急度・重症度を踏まえた対応について説明できる。 ③判断の根拠となる資料を作成することができる。 ④系統的な情報から個（子ども）および学校の集団としての健康課題を説明できる。
3) 子どもの心身の状態に応じて必要な指導や支援の計画を立案することができる。	①子どもの心身の状態や発達段階に応じた指導や支援の計画を立案することができる。 ②必要な指導や支援の計画を関係者と協議し、役割を調整する方法を説明できる。 ③計画の修正や改善の時期や内容に見通しを持つことができる。
4) 具体的な場面を想定し、関係者と協働して指導や支援を展開できる。	①子どもの心身の状態に応じた適切な対応について説明できる。 ②計画に基づいて、関係者と協働で取り組む活動の内容と方法を説明できる。 ③子どもの心身の状態に応じた健康相談（健康相談活動）や保健指導の具体的な場面や方法を列挙できる。 ④計画した保健教育を推進するために働きかける対象や内容および方法を列挙できる。 ⑤教職員に周知する内容や必要性を列挙して、校内研修の企画案を提案することができる。 ⑥家庭に周知し、協力を得るための方法や内容について説明できる。 ⑦人権やプライバシーに配慮した指導や支援を説明できる。 ⑧健康情報センターとしての保健室の役割を認識した保健室経営について説明できる。
5) 養護実践と学校保健活動および学校教育活動の関係を理解する。	①学校保健目標と養護実践の関係を説明できる。 ②保健室経営目標と養護実践の関係を説明できる。 ③学校全体の保健教育を評価・改善するプロセスを理解し、説明できる。 ④保健室経営を評価し、改善するための方策を説明できる。
6) 養護教諭としての資質・能力を向上させる方法および研究方法を理解する。	①子どもの症状・状態・観察・判断・処置の内容を記録することができる。 ②子どもの状態の変化を踏まえて、養護実践を評価し、指導や支援の計画を修正し、改善する方策を説明できる。 ③養護の役割を追究し、自己研鑽する内容と方法を説明できる。

<参考資料> 教職課程コアカリキュラム対応表 (保健科教育法)

(A 大学の例)

各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)		項目 到達目標 授業回	(1)					(2)						
全体目標:	当該教科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。		1)	2)	3)	4)	5)	1)	2)	3)	4)	5)		
(1) 当該教科の目標及び内容														
一般目標:	学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解する。													
到達目標:	1) 学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。 2) 個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。 3) 当該教科の学習評価の考え方を理解している。 4) 当該教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。 5) 発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができる。 ※中学校教諭及び高等学校教諭	1	○											
		2	○											
		3	○											
		4	○											
		5	○											
		6	○						○					
		7	○						○					
		8	○							○				
		9	○							○				
		10	○								○			
		11	○								○			
		12			○									
		13			○	○	○					○	○	
		14			○	○	○					○	○	
		15			○	○	○					○	○	
(2) 当該教科の指導方法と授業設計														
一般目標:	基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。													
到達目標:	1) 子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。 2) 当該教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。 3) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。 4) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。 5) 当該教科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。 ※中学校教諭及び高等学校教諭	1	○											
		2	○											
		3	○											
		4	○											
		5	○											
		6	○											
		7	○								○			
		8	○											
		9	○											
		10	○											
		11	○											
		12	○											
		13				○	○							
		14				○	○							
		15				○	○							
		1										○	○	○
		2										○	○	○
		3										○	○	○
		4										○	○	○
		5										○	○	○
		6										○	○	○
		7										○	○	○
		8										○	○	○
		9										○	○	○
		10										○	○	○
		11										○	○	○
		12										○	○	○
		13										○	○	○
		14										○	○	○
		15										○	○	○
		1												
		2												
		3												
		4												
		5												
		6												
		7												
		8												
		9												
		10												
		11												
		12												
		13												
		14												
		15												

◎ 一到達目標に係る授業を単独の授業回で行う場合
○ 一到達目標に係る授業を複数の授業回にわたって全体的に行う場合

分科会 2019年度 養成教育セミナー

「養護教諭養成モデル・コア・カリキュラム」の構築に向けて II グループワークシート

1. 自己紹介

2. 「養護教諭養成課程コアカリキュラム（養大協版）2020（案）」に関する調査結果をもとに検討

(1) 自分の大学のカリキュラムについてわかる範囲で、担当する群の項目を再度チェックする。

(2) コアカリ案を妥当なものだと仮定して、自分の大学や自分の担当授業を評価し、現在のところ不足しているところなどを考える。

(3) コアカリ案に理解しにくい項目はあるか、あいまいな文言やわかりにくい言葉はないか確認する。

(4) 全体目標の内容、表現が妥当であるか確認する。

(5) 一般目標の内容、表現が妥当であるか確認する。

(6) 全体目標と一般目標の一貫性について確認する。

(7) 全体目標・一般目標の達成に向けて、追加したほうが良い「到達目標」があるか確認する。

(8) 追加したほうが良い「到達目標」を実施している大学は、具体的にどの授業科目で実施しているか、意見交換する。

(9) この到達目標で、全体目標が到達できるか、どの大学でも実施可能な内容は何か意見交換する。

(10) 時間があれば・・・、コアカリをどのように活用するか意見交換する。

3. 日本養護教諭養成大学協議会作成「養護教諭養成課程コアカリキュラム（養大協版）2020」について、養成教育セミナーについてご意見をお聞かせください。

※別紙アンケートにご記入ください。

「養護教諭養成課程コアカリキュラム（養大協版）2020（案）」に関する調査2 結果 < I 群 >

回答数 (%) n=73

【I群】養護および養護教諭に関する基礎的理解		養護に関する科目																教職に関する科目								
全体目標	教育職員としての養護教諭が養護をつかさどるための基礎的・基本的事項について理解する。また、学校保健活動の中核的な役割を果たすための養護教諭の専門性を理解する。	衛生学及び公衆衛生学(予防医学を含む。)		学校保健		養護概説		健康相談活動の理論及び方法		栄養学(食品学を含む。)		解剖学及び生理学		「微生物学、免疫学、薬理概論」		精神保健		看護学(臨床実習及び救急処置を含む。)		養護実習		教職実践演習(養護教諭)		その他の教職に関する科目		
一般目標	到達目標																									
1) 養護の概念並びに養護教諭の基本的責務、歴史や制度(関係法規を含む)、職業倫理、役割・職務内容を理解する。	①養護の概念について理解している。	6	8.2	34	46.6	70	95.9	35	47.9	1	1.4	3	4.1	0	0.0	2	2.7	16	21.9	57	78.1	45	61.6	15	20.5	
	②養護教諭の基本的責務について理解している。	7	9.6	41	56.2	73	100	41	56.2	3	4.1	3	4.1	1	1.4	4	5.5	20	27.4	62	84.9	52	71.2	19	26.0	
	③養護教諭の歴史や制度(関係法規を含む)について理解している。	8	11.0	37	50.7	73	100	28	38.4	0	0.0	1	1.4	0	0.0	4	5.5	12	16.4	41	56.2	37	50.7	12	16.4	
	④養護教諭の職業倫理について理解している。	4	5.5	27	37.0	72	98.6	35	47.9	0	0.0	1	1.4	0	0.0	2	2.7	21	28.8	58	79.5	51	69.9	13	17.8	
	⑤養護教諭の役割・職務内容について理解している。	10	13.7	47	64.4	72	98.6	43	58.9	1	1.4	2	2.7	0	0.0	5	6.8	21	28.8	63	86.3	57	78.1	20	27.4	
	⑥養護実践の意義について理解している。	3	4.1	36	49.3	70	95.9	39	53.4	0	0.0	2	2.7	0	0.0	2	2.7	18	24.7	60	82.2	54	74.0	13	17.8	
	⑦養護教諭のキャリア形成について理解している。	2	2.7	19	26.0	63	86.3	26	35.6	0	0.0	1	1.4	0	0.0	2	2.7	8	11.0	47	64.4	54	74.0	16	21.9	
2) 子どもの人権や健康観及び発育・発達観に関する基礎的・基本的事項を理解する。	①人権と擁護について理解している。	23	31.5	40	54.8	49	67.1	43	58.9	2	2.7	4	5.5	1	1.4	30	41.1	41	56.2	47	64.4	40	54.8	41	56.2	
	②子どもの人権保障の意義について理解している。	21	28.8	43	58.9	48	65.8	40	54.8	1	1.4	3	4.1	0	0.0	23	31.5	40	54.8	46	63.0	42	57.5	41	56.2	
	③健康・ヘルスプロモーションの考え方について理解している。	52	71.2	62	84.9	55	75.3	39	53.4	19	26.0	7	9.6	6	8.2	24	32.9	40	54.8	46	63.0	44	60.3	21	28.8	
	④人の発育・発達について理解している。	31	42.5	57	78.1	51	69.9	48	65.8	23	31.5	26	35.6	8	11.0	38	52.1	46	63.0	45	61.6	45	61.6	41	56.2	
	⑤学校教育における子どもの発育・発達及び健康への支援と生涯保健との関連を理解している。	28	38.4	65	89.0	56	76.7	46	63.0	19	26.0	10	13.7	5	6.8	22	30.1	35	47.9	49	67.1	48	65.8	37	50.7	
3) 学校保健・学校安全の基礎的・基本的事項を理解する。	①学校保健の意義および領域と構造について理解している。	27	37.0	70	95.9	59	80.8	26	35.6	3	4.1	2	2.7	1	1.4	7	9.6	17	23.3	50	68.5	47	64.4	20	27.4	
	②学校安全の意義について理解している。	19	26.0	67	91.8	56	76.7	22	30.1	2	2.7	1	1.4	2	2.7	5	6.8	17	23.3	47	64.4	42	57.5	24	32.9	
	③チーム学校における養護教諭及び関係者の役割と組織活動の意義について理解している。	13	17.8	65	89.0	64	87.7	43	58.9	4	5.5	2	2.7	2	2.7	7	9.6	17	23.3	55	75.3	56	76.7	35	47.9	
	④学校と家庭および地域との連携・協働の意義、コーディネーターとしての役割について理解している。	18	24.7	64	87.7	68	93.2	50	68.5	7	9.6	2	2.7	1	1.4	9	12.3	16	21.9	57	78.1	57	78.1	32	43.8	
	⑤保健室経営の意義と養護教諭の専門性について理解している。	5	6.8	47	64.4	68	93.2	45	61.6	3	4.1	2	2.7	1	1.4	4	5.5	15	20.5	56	76.7	55	75.3	15	20.5	

「養護教諭養成課程コアカリキュラム（養大協版）2020（案）」に関する調査2 結果 <Ⅱ群>

回答数 (%) n=73

全体目標	養護に関する科目																教職に関する科目									
	衛生学及び公衆衛生学(予防医学を含む。)		学校保健		養護概説		健康相談活動の理論及び方法		栄養学(食品学を含む。)		解剖学及び生理学		「微生物学、免疫学、薬理概論」		精神保健		看護学(臨床実習及び救急処置を含む。)		養護実習		教職実践演習(養護教諭)		その他の教職に関する科目			
【Ⅱ群】子どもと子どもを取り巻く環境の理解																										
一般目標	到達目標																									
1) 人間のライフステージと発達過程について理解する。	①人間のライフステージと発達過程について理解している。		31	42.5	46	63.0	37	50.7	38	52.1	19	26.0	17	23.3	6	8.2	50	68.5	57	78.1	35	47.9	35	47.9	33	45.2
	②社会的存在としての子どもについて理解している。		32	43.8	45	61.6	46	63.0	44	60.3	6	8.2	3	4.1	1	1.4	32	43.8	51	69.9	39	53.4	40	54.8	34	46.6
2) 心身機能・構造と発達過程について理解する。	①命を生むしくみ(人体の発生・遺伝子・生殖系などの機能・構造)と発達過程について理解している。		10	13.7	9	12.3	10	13.7	8	11.0	8	11.0	68	93.2	27	37.0	7	9.6	52	71.2	15	20.5	15	20.5	10	13.7
	②命を維持するしくみ(呼吸・循環・代謝系、ホメオスタシスなどの機能・構造)と発達過程について理解している。		15	20.5	7	9.6	6	8.2	8	11.0	23	31.5	70	95.9	29	39.7	5	6.8	56	76.7	15	20.5	15	20.5	10	13.7
	③身体を支えて動くしくみ(運動器・神経系などの機能・構造)と発達過程について理解している。		10	13.7	8	11.0	12	16.4	9	12.3	10	13.7	70	95.9	19	26.0	7	9.6	53	72.6	17	23.3	16	21.9	9	12.3
	④情報収集のしくみ(感覚器・神経系などの機能・構造)と発達過程について理解している。		7	9.6	6	8.2	11	15.1	12	16.4	9	12.3	70	95.9	18	24.7	15	20.5	52	71.2	17	23.3	15	20.5	10	13.7
	⑤高次機能のしくみ(認知・行動などの機能と脳の構造)と発達過程について理解している。		9	12.3	7	9.6	7	9.6	14	19.2	6	8.2	69	94.5	14	19.2	35	47.9	50	68.5	15	20.5	16	21.9	8	11.0
	⑥心と身体をつなぐしくみ(神経・内分泌・免疫系などの機能・構造)と発達過程について理解している。		8	11.0	7	9.6	7	9.6	14	19.2	13	17.8	70	95.9	33	45.2	25	34.2	50	68.5	16	21.9	16	21.9	9	12.3
3) ライフステージ各期の心身の発育・発達の特徴および健康課題・病態の特徴について理解する。	①生理的変化と疾患のなりたち・治療法について理解している。		22	30.1	13	17.8	16	21.9	15	20.5	19	26.0	41	56.2	38	52.1	27	37.0	57	78.1	20	27.4	24	32.9	13	17.8
	②乳幼児期の心身の発育・発達の特徴と健康課題・病態の特徴について理解している。		30	41.1	22	30.1	21	28.8	19	26.0	12	16.4	24	32.9	15	20.5	42	57.5	60	82.2	16	21.9	19	26.0	25	34.2
	③小児期の心身の発育・発達の特徴と健康課題・病態の特徴について理解している。		28	38.4	39	53.4	43	58.9	35	47.9	20	27.4	23	31.5	16	21.9	47	64.4	61	83.6	39	53.4	38	52.1	30	41.1
	④思春期の心身の発育・発達の特徴と健康課題・病態の特徴について理解している。		29	39.7	39	53.4	44	60.3	38	52.1	18	24.7	24	32.9	15	20.5	52	71.2	64	87.7	38	52.1	37	50.7	30	41.1
	⑤青年期の心身の発育・発達の特徴と健康課題・病態の特徴について理解している。		30	41.1	28	38.4	33	45.2	32	43.8	16	21.9	24	32.9	15	20.5	51	69.9	62	84.9	21	28.8	24	32.9	25	34.2
	⑥壮年期以降の心身の発達・加齢性変化の特徴と健康課題・病態の特徴について理解している。		31	42.5	10	13.7	11	15.1	10	13.7	17	23.3	23	31.5	14	19.2	42	57.5	59	80.8	12	16.4	14	19.2	14	19.2
4) 特別な支援を必要とする子どもとその発達過程について理解する。	①身体的支援を必要とする子どもと発達過程について理解している。		16	21.9	45	61.6	52	71.2	39	53.4	7	9.6	6	8.2	5	6.8	25	34.2	56	76.7	44	60.3	41	56.2	34	46.6
	②精神的支援を必要とする子どもと発達過程について理解している。		17	23.3	45	61.6	52	71.2	51	69.9	6	8.2	6	8.2	5	6.8	56	76.7	50	68.5	48	65.8	46	63.0	42	57.5
	③養育環境への支援を必要とする子どもと発達過程について理解している。		18	24.7	41	56.2	51	69.9	50	68.5	7	9.6	5	6.8	5	6.8	35	47.9	44	60.3	47	64.4	45	61.6	42	57.5
	④多様な背景(性、外国籍など)をもつ子どもと発達過程について理解している。		16	21.9	38	52.1	44	60.3	44	60.3	5	6.8	7	9.6	5	6.8	24	32.9	35	47.9	43	58.9	41	56.2	40	54.8
5) 子どもを取り巻く環境(生活・家族・地域など)と健康との関わりについて理解する。	①生活(日常生活行動、生活リズムなど)と健康との関わりについて理解している。		39	53.4	47	64.4	48	65.8	46	63.0	26	35.6	9	12.3	9	12.3	25	34.2	51	69.9	52	71.2	43	58.9	21	28.8
	②家族の機能・構造と子どもの健康との関わりについて理解している。		31	42.5	38	52.1	44	60.3	48	65.8	13	17.8	4	5.5	4	5.5	30	41.1	50	68.5	46	63.0	39	53.4	20	27.4
	③健康の決定要因(物理的・化学的・生物学的環境、政策、社会・経済的地位など)について理解している。		52	71.2	40	54.8	39	53.4	37	50.7	15	20.5	7	9.6	15	20.5	24	32.9	44	60.3	36	49.3	33	45.2	18	24.7
	④地域の連携可能な関係機関(保健機関、医療機関、福祉機関など)と関係職種(ボランティア、民生委員など)を理解している。		53	72.6	51	69.9	50	68.5	52	71.2	7	9.6	4	5.5	5	6.8	29	39.7	48	65.8	44	60.3	44	60.3	24	32.9

「養護教諭養成課程コアカリキュラム（養大協版）2020（案）」に関する調査2結果 <Ⅲ群>

回答数 (%) n=73

【Ⅲ群】養護実践の基礎的内容と方法の理解	養護に関する科目																教職に関する科目									
	養護実践を進めるにあたり、養護教諭の職務内容、学校保健活動において求められる役割について、基礎的内容および基本的な方法を理解する。		衛生学及び公衆衛生学(予防医学を含む。)		学校保健		養護概説		健康相談活動の理論及び方法		栄養学(食品学を含む。)		解剖学及び生理学		「微生物学、免疫学、薬理概論」		精神保健		看護学(臨床実習及び救急処置を含む。)		養護実習		教職実践演習(養護教諭)		その他の教職に関する科目	
一般目標	到達目標																									
1) 保健管理の意義と目的、内容、基本的な方法について理解する。	①健康観察の意義と目的をふまえた上で、基本的な観察方法と活用について理解している。	13	17.8	62	84.9	64	87.7	43	58.9	2	2.7	2	2.7	3	4.1	8	11.0	26	35.6	61	83.6	44	60.3	13	17.8	
	②健康診断の意義と目的をふまえた上で、基礎的内容、基本的な実施方法と活用方法について理解している。	16	21.9	61	83.6	67	91.8	30	41.1	4	5.5	1	1.4	2	2.7	3	4.1	20	27.4	60	82.2	42	57.5	10	13.7	
	③疾病の予防と管理に関する基礎的内容、基本的な実施方法について理解している。	30	41.1	57	78.1	66	90.4	31	42.5	12	16.4	6	8.2	20	27.4	10	13.7	45	61.6	58	79.5	44	60.3	10	13.7	
	④学校環境衛生活動の意義と目的をふまえた上で、基礎的内容、基本的な方法について理解している。	19	26.0	61	83.6	56	76.7	15	20.5	2	2.7	0	0.0	13	17.8	4	5.5	17	23.3	55	75.3	37	50.7	11	15.1	
	⑤学校生活における安全管理・危機管理の意義と目的をふまえた上で、基礎的内容、基本的な方法について理解している。	16	21.9	66	90.4	60	82.2	23	31.5	2	2.7	1	1.4	6	8.2	4	5.5	22	30.1	58	79.5	46	63.0	16	21.9	
	⑥危機管理体制の整備に関する基礎的内容、基本的な方法について理解している。	16	21.9	62	84.9	54	74.0	26	35.6	2	2.7	0	0.0	4	5.5	4	5.5	29	39.7	57	78.1	42	57.5	17	23.3	
2) 救急処置の意義と目的、内容、基本的な方法について理解する。	①救急処置の意義と目的をふまえた上で、基礎的内容、基本的な方法について理解している。	7	9.6	41	56.2	56	76.7	21	28.8	0	0.0	2	2.7	6	8.2	3	4.1	56	76.7	58	79.5	43	58.9	11	15.1	
	②救急体制の整備に関する基礎的内容、基本的な方法について理解している。	8	11.0	46	63.0	57	78.1	17	23.3	1	1.4	1	1.4	1	1.4	4	5.5	48	65.8	58	79.5	47	64.4	12	16.4	
3) 保健教育の位置づけと目的、内容、基本的な方法について理解する。	①保健教育の位置づけと目的をふまえた上で、基礎的な理論と活用方法を理解している。	10	13.7	63	86.3	57	78.1	20	27.4	3	4.1	1	1.4	1	1.4	5	6.8	12	16.4	58	79.5	50	68.5	25	34.2	
	②関連教科における保健に関する目標と内容を理解し、包括的な保健教育の視点を理解している。	6	8.2	52	71.2	49	67.1	19	26.0	4	5.5	4	5.5	1	1.4	4	5.5	9	12.3	56	76.7	46	63.0	28	38.4	
	③総合的な学習の時間における保健に関する目標と内容、基本的な指導の方法を理解している。	4	5.5	45	61.6	39	53.4	13	17.8	2	2.7	1	1.4	1	1.4	4	5.5	8	11.0	48	65.8	44	60.3	37	50.7	
	④特別活動における保健に関する目標と内容、基本的な指導の方法を理解している。	4	5.5	46	63.0	45	61.6	15	20.5	1	1.4	0	0.0	0	0.0	2	2.7	10	13.7	55	75.3	42	57.5	35	47.9	
4) 健康相談（健康相談活動）・保健指導の意義と目的、子どもと家庭への基本的な支援方法について理解する。	①健康相談（健康相談活動）の意義と目的をふまえた上で、養護教諭の役割を理解し、基本的な相談技術と留意点について理解している。	7	9.6	40	54.8	61	83.6	64	87.7	2	2.7	0	0.0	0	0.0	8	11.0	11	15.1	59	80.8	48	65.8	13	17.8	
	②子どもの健康課題を把握し、課題解決に向けた基本的な支援方法を理解している。	11	15.1	45	61.6	62	84.9	60	82.2	5	6.8	1	1.4	1	1.4	13	17.8	24	32.9	59	80.8	50	68.5	14	19.2	
	③保健指導や学校生活における日常的な指導について理解している。	5	6.8	50	68.5	65	89.0	51	69.9	1	1.4	1	1.4	0	0.0	4	5.5	18	24.7	60	82.2	48	65.8	16	21.9	
	④健康相談（健康相談活動）における連携先と連携方法について理解している。	11	15.1	40	54.8	55	75.3	64	87.7	1	1.4	0	0.0	0	0.0	11	15.1	13	17.8	57	78.1	49	67.1	14	19.2	
5) 保健室経営の意義と目的、基本的な方法について理解する。	①保健室経営の意義と目的をふまえた上で、養護実践のプロセスについて理解している。	1	1.4	37	50.7	70	95.9	28	38.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	1.4	14	19.2	58	79.5	49	67.1	11	15.1	
	②保健室経営計画の必要性を理解し、作成方法について理解している。	1	1.4	32	43.8	69	94.5	18	24.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	1.4	11	15.1	60	82.2	49	67.1	10	13.7	
	③養護実践を通じて得た情報を保健室経営計画に反映させるための、疫学や統計手法等を含めた基本的な方法を理解している。	19	26.0	31	42.5	56	76.7	18	24.7	0	0.0	0	0.0	3	4.1	2	2.7	12	16.4	55	75.3	46	63.0	11	15.1	
	④学校内外の関係者との協働の重要性、連携の在り方を理解している。	18	24.7	46	63.0	66	90.4	41	56.2	2	2.7	1	1.4	4	5.5	7	9.6	16	21.9	58	79.5	57	78.1	20	27.4	
6) 保健組織活動の意義と目的、内容や統一的な連携・協働について理解する。	①保健組織活動の意義と目的をふまえた上で、活動内容、基本的な方法について理解している。	12	16.4	63	86.3	66	90.4	31	42.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	4.1	14	19.2	58	79.5	50	68.5	15	20.5	
	②教育及び保健・医療・福祉に関わる社会資源について理解している。	32	43.8	52	71.2	53	72.6	40	54.8	4	5.5	2	2.7	3	4.1	8	11.0	22	30.1	53	72.6	50	68.5	21	28.8	
	③家庭との具体的な連携・協働の方法や支援方法について理解している。	12	16.4	46	63.0	58	79.5	45	61.6	3	4.1	1	1.4	1	1.4	6	8.2	24	32.9	58	79.5	50	68.5	22	30.1	
	④地域との具体的な連携・協働の方法について理解している。	23	31.5	46	63.0	53	72.6	41	56.2	3	4.1	1	1.4	3	4.1	8	11.0	21	28.8	55	75.3	48	65.8	22	30.1	
	⑤チームとしての学校運営における具体的な連携・協働の方法について理解している。	11	15.1	53	72.6	59	80.8	36	49.3	0	0.0	0	0.0	1	1.4	4	5.5	15	20.5	59	80.8	57	78.1	32	43.8	

「養護教諭養成課程コアカリキュラム（養大協版）2020（案）」に関する調査2結果 <IV群>

回答数 (%) n=73

【IV群】養護実践の計画と展開方法の理解	子どもの実態に応じた養護実践を計画し、必要な知識・技術・方法を統合して、養護実践を展開し、評価・改善するための方法を理解する。	養護に関する科目																教職に関する科目									
		衛生学及び公衆衛生学(予防医学を含む。)		学校保健		養護概説		健康相談活動の理論及び方法		栄養学(食品学を含む。)		解剖学及び生理学		「微生物学、免疫学、薬理概論」		精神保健		看護学(臨床実習及び救急処置を含む。)		養護実習		教職実践演習(養護教諭)		その他の教職に関する科目			
一般目標	到達目標																										
1) 子どもの心身に関する情報の収集と管理を行い、関係者と情報共有する意義と方法を説明できる。	①子どもの心身の情報を収集し、整理する方法を説明できる。	10	13.7	39	53.4	59	80.8	49	67.1	3	4.1	3	4.1	2	2.7	19	26.0	40	54.8	61	83.6	49	67.1	23	31.5		
	②子どもに共感的態度でかわかり、心身の情報等から常に子どもの健康状態を把握することができる。	8	11.0	30	41.1	57	78.1	55	75.3	2	2.7	1	1.4	0	0.0	24	32.9	39	53.4	63	86.3	48	65.8	23	31.5		
	③子どもの心身の状況や周囲の環境における課題を関係者と共有することができる。	9	12.3	34	46.6	56	76.7	52	71.2	4	5.5	1	1.4	2	2.7	18	24.7	38	52.1	63	86.3	49	67.1	27	37.0		
	④収集した情報を管理する方法を説明できる	9	12.3	32	43.8	53	72.6	46	63.0	1	1.4	1	1.4	2	2.7	13	17.8	36	49.3	61	83.6	46	63.0	21	28.8		
2) 子どもの心身の状態を根拠に基づいて包括的に評価できる。	①子どもに生じている問題について、背景や影響する要因を踏まえて説明できる。	15	20.5	36	49.3	54	74.0	57	78.1	5	6.8	3	4.1	4	5.5	21	28.8	35	47.9	60	82.2	53	72.6	22	30.1		
	②心身の状態を包括的に評価し、緊急度・重症度を踏まえた対応について説明できる。	10	13.7	31	42.5	51	69.9	53	72.6	2	2.7	2	2.7	2	2.7	17	23.3	42	57.5	59	80.8	48	65.8	24	32.9		
	③判断の根拠となる資料を作成することができる。	11	15.1	26	35.6	48	65.8	41	56.2	4	5.5	3	4.1	5	6.8	9	12.3	34	46.6	58	79.5	51	69.9	17	23.3		
	④体系的な情報から個(子ども)および学校の集団としての健康課題を説明できる。	13	17.8	37	50.7	49	67.1	39	53.4	4	5.5	0	0.0	0	0.0	7	9.6	26	35.6	58	79.5	50	68.5	18	24.7		
3) 子どもの心身の状態に応じて必要な指導や支援の計画を立案することができる。	①子どもの心身の状態や発達段階に応じた指導や支援の計画を立案することができる。	7	9.6	31	42.5	46	63.0	49	67.1	5	6.8	1	1.4	1	1.4	10	13.7	32	43.8	53	72.6	51	69.9	23	31.5		
	②必要な指導や支援の計画を関係者と協議し、役割を調整する方法を説明できる。	9	12.3	29	39.7	47	64.4	45	61.6	3	4.1	1	1.4	1	1.4	9	12.3	31	42.5	53	72.6	48	65.8	21	28.8		
	③計画の修正や改善の時期や内容を見直しを持つことができる。	7	9.6	28	38.4	44	60.3	38	52.1	2	2.7	0	0.0	1	1.4	8	11.0	31	42.5	50	68.5	46	63.0	17	23.3		
4) 具体的な場面を想定し、関係者と協働して指導や支援を展開できる。	①子どもの心身の状態に応じた適切な対応について説明できる。	6	8.2	31	42.5	46	63.0	50	68.5	5	6.8	2	2.7	2	2.7	11	15.1	35	47.9	58	79.5	53	72.6	20	27.4		
	②計画に基づいて、関係者と協働で取り組む活動の内容と方法を説明できる。	5	6.8	34	46.6	49	67.1	44	60.3	4	5.5	0	0.0	0	0.0	8	11.0	26	35.6	57	78.1	49	67.1	19	26.0		
	③子どもの心身の状態に応じた健康相談(健康相談活動)や保健指導の具体的な場面や方法を列挙できる。	5	6.8	29	39.7	47	64.4	55	75.3	3	4.1	0	0.0	1	1.4	8	11.0	21	28.8	58	79.5	52	71.2	20	27.4		
	④計画した保健教育を推進するために働きかける対象や内容および方法を列挙できる。	5	6.8	36	49.3	50	68.5	31	42.5	1	1.4	1	1.4	0	0.0	5	6.8	16	21.9	58	79.5	47	64.4	21	28.8		
	⑤教職員に周知する内容や必要性を列挙して、校内研修の企画案を提案することができる。	4	5.5	27	37.0	47	64.4	32	43.8	1	1.4	0	0.0	0	0.0	6	8.2	15	20.5	51	69.9	48	65.8	22	30.1		
	⑥家庭に周知し、協力を得るための方法や内容について説明できる。	5	6.8	27	37.0	48	65.8	42	57.5	2	2.7	0	0.0	0	0.0	7	9.6	24	32.9	59	80.8	51	69.9	23	31.5		
	⑦人権やプライバシーに配慮した指導や支援を説明できる。	10	13.7	30	41.1	52	71.2	47	64.4	3	4.1	1	1.4	3	4.1	14	19.2	29	39.7	57	78.1	49	67.1	24	32.9		
	⑧健康情報センターとしての保健室の役割を認識した保健室経営について説明できる。	8	11.0	31	42.5	60	82.2	31	42.5	1	1.4	0	0.0	1	1.4	5	6.8	13	17.8	56	76.7	52	71.2	11	15.1		
5) 養護実践と学校保健活動および学校教育活動の関係を理解する。	①学校保健目標と養護実践の関係を説明できる。	4	5.5	39	53.4	62	84.9	18	24.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	4.1	11	15.1	56	76.7	46	63.0	12	16.4		
	②保健室経営目標と養護実践の関係を説明できる。	3	4.1	29	39.7	61	83.6	15	20.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	4.1	11	15.1	57	78.1	48	65.8	9	12.3		
	③学校全体の保健教育を評価・改善するプロセスを理解し、説明できる。	4	5.5	38	52.1	51	69.9	14	19.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	4.1	10	13.7	51	69.9	49	67.1	12	16.4		
	④保健室経営を評価し、改善するための方策を説明できる。	4	5.5	26	35.6	57	78.1	13	17.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	4.1	10	13.7	54	74.0	49	67.1	11	15.1		
6) 養護教諭としての資質・能力を向上させる方法および研究方法を理解する。	①子どもの症状・状態・観察・判断・処置の内容を記録することができる。	5	6.8	23	31.5	48	65.8	33	45.2	1	1.4	1	1.4	2	2.7	6	8.2	37	50.7	61	83.6	50	68.5	9	12.3		
	②子どもの状態の変化を踏まえて、養護実践を評価し、指導や支援の計画を修正し、改善する方策を説明できる。	5	6.8	22	30.1	50	68.5	26	35.6	1	1.4	1	1.4	1	1.4	4	5.5	22	30.1	58	79.5	59	80.8	10	13.7		
	③養護の役割を追究し、自己研鑽する内容を方法を説明できる。	4	5.5	22	30.1	52	71.2	19	26.0	1	1.4	1	1.4	1	1.4	4	5.5	14	19.2	51	69.9	63	86.3	9	12.2		

